

平成28年度第1回外洋常任委員会 議事概要

日時：平成28年6月18日(土) 16:40～19:00

場所：岸体育館101号会議室

出席者：(理事)

坂谷定生常務、平井昭光、宇都光伸、中澤信夫、菊池邦仁
(委員会)

レース委員会外洋小委員長 三浦信郎

外洋計測委員会IRC委員長 川合紀行

ルール委員会外洋規則小委員長 大村雅一

国際委員会外洋小委員長 鈴木一行

外洋常任委員会事務局 鈴木保夫

JSAF事務局次長 寺澤寿一

(順不同、敬称略) 合計11名

1. 開会挨拶

坂谷常務理事：本日常任委員会を開催したが、既に6月であり、新年度になって大分時間が経っている。時間がもったいないので4月に開催すべきと考えているので検討して行きたい。

新理事が2名出席している。

北海道東北水域は、餅理事から菊地理事に、九州水域は剝岩理事から宇都理事に変更となった。

2. 議事

(1) 外洋艇推進G関係専門委員会担当理事の選任について

担当理事を新たに選任するので、担当の希望をとる。やりたい方は申し出て欲しい。

宇都理事：ルール委員会を希望したい。

菊地理事：新任であり特に希望は無い。

坂谷常務理事：キールポート委員会は中澤理事にお願いしたい。

平井理事：国際をお願いしたい。

坂谷常務理事：国際は植松副会長と平井理事でお願いしたい。

ルール委員会の会議の回数は？

大村委員長：外洋自体の会議は殆どない。メールで情報を流している。

宇都理事：会議が無いのであれば、レースをお願いしたい。

坂谷常務理事：レース委員会担当は宇都理事にお願いする。

安全委員会は菊地理事にお願いする。

常任委員会は、植松副会長と坂谷とする。

坂谷常務理事：担当理事の確認をする。

（外洋計測委員会）馬場理事、（外洋安全委員会）菊池理事

（レース委員会外洋小員会）大島理事、宇都理事、

（ルール委員会外洋規則小委員会）平松理事

（国際委員会外洋小委員会）植松副会長、平井理事、

（キールボート強化員会）中澤理事

※添付組織図参照

（2）ジャパンカップに関する報告について

坂谷常務理事：現在10艇エントリーしている。

ジャパンカップの開催基準の第2章では10艇以上と規定されている。

そこで、ジャパンカップ開催に関しての嘆願書に対して締切りを1か月延長する特別措置をとった。

カテゴリー変更には不可との回答を出し、現在エントリー表の通り成立している。

（3）外洋関係委員会報告

・外洋計測委員会

坂谷常務理事：吉田委員長が欠席しているので代わりに報告する。

ORCも立ちあがっているが、IRCに変更は無い。IRCがORCに変わることはない。

ORCを採用した理由は「ORCANとは今後は契約しない、JSAFとする」というフィンチの言葉を受けての結果である。

鈴木（一）委員長：世界的にはIRCとORCは拮抗している。水と油の関係となっている。

1990年代後半より、クルーザーとディンギーが一緒になったため、ORCもロンドンあった。

フィンチがORCをイタリアに持って行ったため、IRCをロンドンで立ち上げた。

JSAFもORCの株主となっており、経営責任を持っている。ORCANは8年間もの間、財務内容を更新していなかった。そのため、ORCANのデータが悪くなっていたので、情報収集も兼ねて計測の講習会を行った。

ORCはプロモーションが上手である。VPPを用いているためORCは技術的に優れていると考えるが、今後は我々がどちらにするか決めていく。

キールボートの将来性にも危機感を持っている。

WS委員は推薦（案）の通りであるが、 kongress に技術系の金井、高垣の両氏を入れていきたい。

日本では、IRCが約300艇、ORCが45艇となっている。

坂谷常務理事：今のところJSAFはIRC中心でいく。

明らかになるまで詳細情報は流さなかった。

今後も鈴木一行委員長に宜しくお願ひし、JSAFはIRCを発展させたい。

平井理事：エンドユーザーに早めに情報を流した方が良い。

(IRC委員会)川合委員長：IRCの登録は昨年と同様であるが新規の申し込みが増えているので昨年を上回るかも知れない。

- ・外洋安全委員会

大村委員長：海上保安庁より改正港則法が施行される案内があった。

雑種船が汽艇等となり、対象範囲が変更される。プレジャーボートは汽艇等に含まれ、港内での避航義務があり、大型の船舶が着岸する場所にみだりに係留することが禁止となる。

PLBのサンプルを持ってきたので紹介する。

- ・レース委員会外洋小委員会

三浦委員長：ミドルボート選手権の公示が大きく変更になっているため、公平ではなくなってきている。今回認めてはまずいとの意見がレース委員会から出ている。

レース委員会としては公認を取り消したいが迷っている。

鈴木(一)委員長：JSAFは公認する側なので、書面で意見を出したらどうか。

平井理事：どういうところが公平ではないのか。

三浦委員長：体重計測の部分で、公示①では計測がなかったものを実施することに変更した。

平井理事：公認することにして付帯決議をしたらどうか。

三浦委員長：公認するが守ることの条件を付けることにする。

坂谷常務理事：レース委員会で判断をしてもらいたい。

- ・ルール委員会外洋規則小委員会

大村委員長：ジャッジの講習会を12月に開催する。

外洋レースに関するものについては合同委員会等で行う。

保安庁からの小型船のライフジャケットの着用義務について、レース中の着用義務の免除をお願いするが内容について提案していきたい。

鈴木(一)委員長：レース艇はサクラマークの性能以上のライフジャケットを、場所を選んで使用している等を報告したらどうか。

大村委員長：着用するのが義務なので、それを免除してもらう事が本来のやり方と考える。

- ・キールボート強化委員会

中澤理事：ニューヨークヨットクラブから、インビテーションナルカップの招待状が届いた。

韓国のセーリング連盟から、レースの案内が届いたが独島等(竹島)を2回周るレースなので日本艇が参加しないように案内する。外務省、保安庁にも連絡する。(大

村事務局長補足)

平井理事：団体に出場しないようには案内できないので難しい。文面は注意して作成する必要がある。

- ・アメリカズカップ委員会

(代)大村事務局長：ソフトバンクが参加しているが、ワールドシリーズを11月18日、19日20日の日程で福岡ドームの前で開催する。

(4) ワーキンググループ報告

- ・艇登録制度 WG

鈴木保夫：許諾した艇をHPに載せているが、ある加盟団体において「登録をしたのに乗っていない」とクレームがついたとのこと。加盟団体事務局から「全部載っていないのなら載せる意味が無いのではないか、辞めても良いのでは。」との意見があった。

クレームを付けたオーナーは載せることにステータスを感じているオーナーと考えられ、こういうオーナーが増えていくことが、HPへの掲載の目的の一つである。

今回問題なのは、掲載しているデータを更新していないことであり、今後は更新していくことを考えるべきであるが、誰がやるのかが問題となる。

それから、新規の艇登録の際は、HPに載せることを申込用紙に記載すべきと考える。

- ・損害保険等 WG

坂谷常務理事：主催者保険を見直して新しく契約した。

今までの保険と大きく違うところは、事故の場所が12海里以外も適応となり、エリアが全世界となったことである。

- ・安全・危機管理 WG

坂谷常務理事：資料の危機管理のフローチャートを作成し、理事会でサポートチームの発足及び事故報告書を提出してもらうためのJSAFと加盟団体との権利と義務に関する契約締結を提案したが無反応であった。

平井理事：JSAFの運営規定を変更して、事故があった場合は報告書を安全委員会に提出させたらどうか。

三浦信郎：主催公認レースは報告書の提出が義務付けられている。

菊池理事：事故の定義は？

平井理事：死亡等の重大な事故を対象とする。

個人情報不要と考え、仮名が良いと思う。

(5) 平成28年度外洋関係予算について

坂谷常務理事：予算書は資料の通りであり、ジャパンカップは収入と支出を予算に組入れている。

(6) WGの改編と委員の編成について。

坂谷常務理事より、安全・危機管理WG及び保険制度WGについては一応の成果が出たので、廃止する。会員増強WGについてはJ系と協力して合同の形やっていく方向で考えてほしい。ジャパンカップに関するものは企画運営も含めた委員会的なものにしたいとの説明があった後、協議に入った。

難しいものは常任委員会全体で協議すれば良いのではないか、ジャパンカップに関しては全日本選手権大会も含めたものにしてはどうか等いろいろな意見が出させたのを受けて、協議した結果添付のワーキンググループ組織表（新体制）のように決定した。なおジャパンカップ及び全日本選手権大会検討委員会についてはメンバーの選任確定が出来なかったため、調整は坂谷常務理事に一任された。

(7) その他

次回の外洋加盟団体長会議は10月1日午後1時より熱海で開催する予定であり、案内は事務局から各団体に発送する旨、坂谷常務理事から説明があった。

坂谷常務理事から冒頭でもあった、役員選挙の年は新役員が決定（見込み含む）次第、評議員会での就任確定を待たず、新旧役員を交えた形で外洋常任委員会は4月当初から活動したいので、ここでそれを確認いただきたいとの提案があり、出席者全員賛同し決定した。

以上で終了し閉会となった。

以上。

文責：鈴木保夫